

## 編集後記

編集委員を仰せ付かりましてから、早、2年になろうとしております。学内の研究が活発になると共に、本学会誌への投稿が増して来ている様で、大変結構なことと思います。なかには、本誌に先ず、日本語で論文を投稿して、その後、症例が1、2例増したら、英文で別の雑誌に投稿される方も居られるようで、その器用さには感心いたします。いたずらに論文の数だけを殖やそうと思って、手抜きをした論文を出してしまうと、一生後悔することになりかねませんので、ご注意下さい。(太田)

編集委員に任命されて1年1ヶ月になります。第13巻第1号の原稿の査読が編集委員長より廻ってきたのが、昨年12月であった。まず、抄録を読み、それを頭に入れ、序文、材料と方法、結果、考察、結論と読み進める。表現のくどい箇所や、オーバーな箇所を手直し、出来るだけすっきりとさせようとする。しかし、ダイエットしようと努力してもなかなか、やせられないように、文章を簡潔に、わかりやすく書くことがいかに困難であるかを自分のことを含めて痛感している次第である。(松丸)

雪の冠をかぶった美しい岩手山の姿を遠目にしながら出勤し、日中には窓越しに本格的な冬に入る前の暖か味を残した日差しをいとおしむ時期となりました。さて本号の編集を振り返って見ますと約 $\frac{2}{3}$ が単著論文であり、その約70%が大学院生のもの、残りが医局員のものでした。したがって内容的には医

局員の方々の単著ならびに共著論文も相当数ありますが、約半分が大学院生の方々の論文で占められている様です。投稿者ならびにその指導に当たった方々の御努力に感謝申し上げます。また昨年永眠された前小原学長先生が大学院歯学研究科の看板を南側玄関に掲げて満足げにほほ笑まれている顔を思い出しつつ拙い分析結果を付して編集後記と致します。

(佐藤)

本年度も残り少なくなり、11月末となって13巻3号も最後の追込みになりました。本号には学位論文7編、原著3編、症例1編が掲載され頁数は約140頁になります。また13巻の総頁数は約340頁となります。1巻から13巻まで約13年間本誌の編集に携わりましたが、本誌発行当時を思いだしますと現在の本誌には格段の発展がみられます。1巻の総頁数は187頁(原著8編、症例7編)、2巻は173頁(原著6編、症例4編)、3巻は263頁(原著8編、症例6編)です。ちなみに、13巻は約330頁(原著20編、症例7編)になります。総頁数が400頁を超えるようになれば年4回の発行も考えなければならないのではないかと思います。それにつけましても編集委員の各先生方にはたいへん御苦勞をおかけしたと思っております。現編集委員の仕事は残すところ、14巻1号のみとなりましたが、頑張って最後の仕事をやりとげたいと思っています。(名和)

---

### 岩手医科大学歯学雑誌 第13巻 第3号

昭和63年11月25日 印刷  
昭和63年11月30日 発行

発行人 鈴木 隆

発行所 岩手医科大学歯学会  
盛岡市中央通1-3-27  
岩手医科大学歯学部内  
振替口座 盛岡 1358  
電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社  
盛岡市本町通2-13-8

---